

B—8 絹の洗たくに関する研究（第11報）
すすぎ液の水質と活性剤の吸着量との
関係

蚕糸試験場 ○皆川 基
飯坂 久子
学習院女子短大 斎藤 道香

1. 洗たくにとって水質が重要な役割りをなすことはいうまでもないが、絹織物は特に水質により光沢、風合などが左右されやすいので、本報ではまずすすぎ液の水質と活性剤ならびに洗剤の吸着力との関係を明らかにすることを目的とした。

2. 洗たく用水としては一般に Cu^{++} Fe^{++} Zn^{++} Mn^{++} Ca^{++} Mg^{++} の6つの成分が問題とされてい

るが、このほか Al^{+++} Cr^{+++} Ni^{+++} SO_4^- Cl^- など計11種の無機イオンを含む液を調製し（許容量または天然井戸水に含まれる量を参考として）、各種の活性剤ならびに洗剤で洗浄したあとのすすぎ液に用いて活性剤の吸着量との関係を求めた。

3. (イ)セッケンを用いて洗浄した場合にはすすぎ液中の Ca^{++} SO_4^- が特に活性剤の除去を阻害する。

(ロ)ラウリルアルコール硫酸エステルソーダを用いて洗浄した場合にはすすぎ液中の SO_4^- Cl^- が特に活性剤の除去を阻害する。

(ハ)アルキルベンゼンスルホン酸ソーダ塩を用いて洗浄した場合にはすすぎ液中の Ca^{++} が特に活性剤の除去を阻害する。

(ニ)ポリエチレングリコールモノラウレートを用いて洗浄した場合にはすすぎ液中の Zn^{++} Fe^{++} が特に活性剤の除去を阻害する。

(ホ)ポリオキシエチレンアルキルフェノールを用いて洗浄した場合には Zn^{++} Ni^{++} Cl^- が多少影響する。